

中央発電所 7 号ボイラーの燃料転換について

2005 年 6 月 8 日
株式会社トクヤマ

当社は、徳山製造所（山口県周南市）に唯一残っていた重油を燃料とする 7 号ボイラーに対し、石炭への燃料転換を行うとともに合理化投資を行うことを決定した。工事は 2005 年 12 月に着工、2007 年 10 月に完成予定。総投資額は 3 年間の総額で約 100 億円を見込む。

現行の 7 号ボイラーは、燃料として特C重油（アスファルト）を使用しているが、特C重油の需給状況によるコスト変動と今後のエネルギー情勢などを勘案して石炭への転換を図る。また、ボイラーの燃焼方式を当社では初めての循環流動層タイプを採用することにより広範囲な炭種を受け入れることが可能となり、加えて廃タイヤやバイオマスを混焼できるようにする。さらに、蒸気発生量も 260 トン/h から約 20% 増強して 310 トン/h とする。

発電能力については現行の 78,000KW と変わらないが、タービンの一部を抽気式タービンに更新することにより、発電所全体のエネルギー効率アップを図る。

【参考】 現有自家発電能力

ボイラー	蒸気発生量(t/h)	主 燃 料	認可出力(KW)
中央発電所 5号	220	石 炭	35,000
7号	260→310	特C重油→石炭	78,000
8号	500	石 炭	145,000
9号	530	石 炭	149,000
東発電所 東2号	580	石 炭	145,000
計			552,000

当社は 1918 年の創業以来、徳山製造所における電力は自家発電で賄ってきた。現在の発電量は中央・東発電所合わせて 552,000KW と単一工場としては全国で 5 指に入る規模となっている。7 号ボイラーは 1971 年に竣工したもので、老朽化が進み更新時期にさしかかっていた。

以 上

本件に関するお問い合わせ先：株式会社トクヤマ

広報グループ TEL 03-3499-8023

総務グループ TEL 0834-21-4278